

## 適期収穫時期判断のポイント

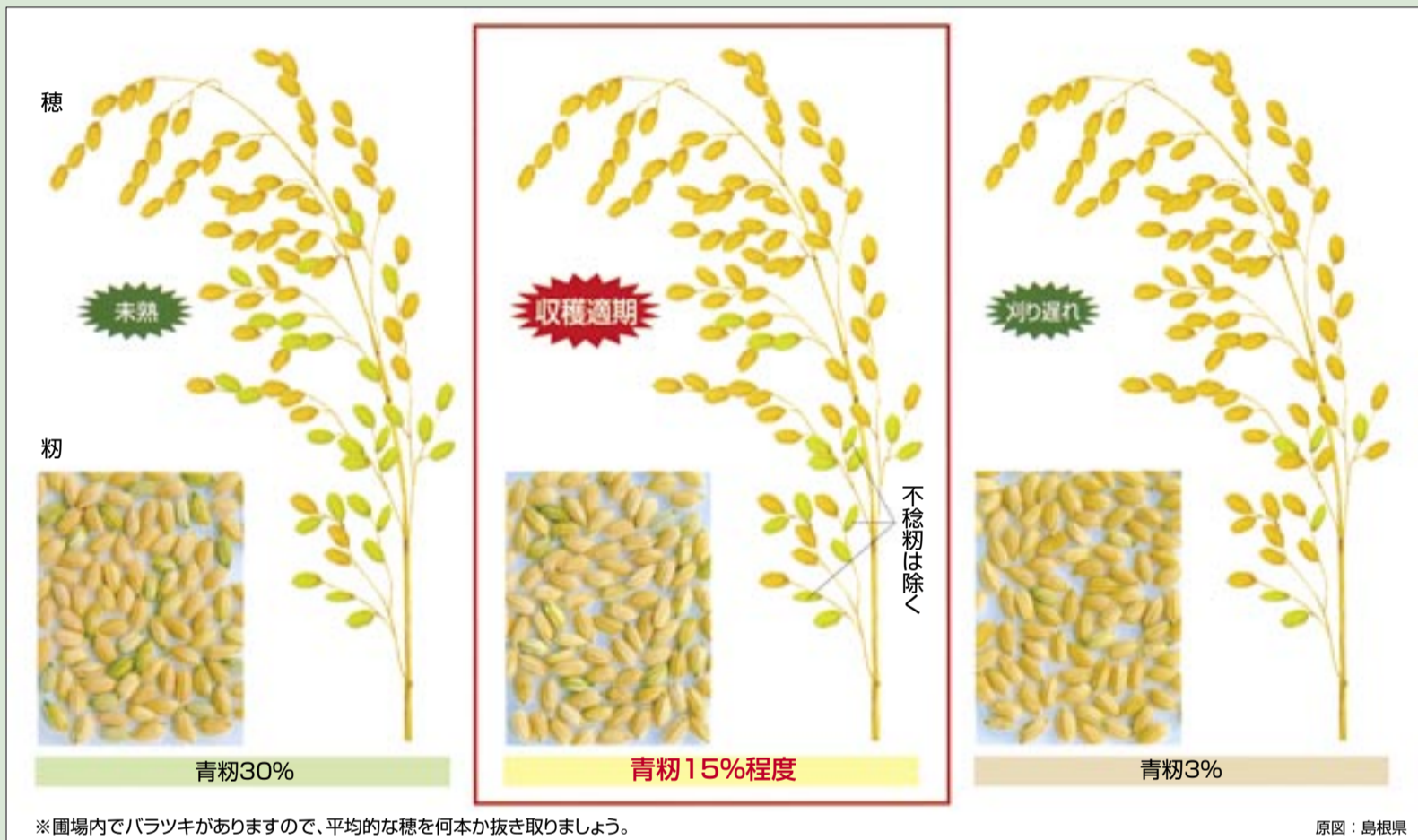
- ①籾の黄化割合85%を目安とする
- ②出穂後、早生品種（キヌヒカリ）40日、中生品種（祭り晴）43日を目安とする
- ③気温が平年より高い年は収穫時期を早め、気温が低い年は収穫時期を遅らせる

## 収穫適期判定方法について

### ①籾の黄化程度による判定方法（図参照）

- ・1穂についている籾の黄化割合で収穫適期を判断する方法です
- ・枝梗（籾が付いている枝）は、収穫期になっても黄化しにくくなっています
- ・黄化した籾が85%程度（青い籾が15%残っている状態）が収穫適期です

\*参考：1穂籾の黄化程度（割合）モデル図



### ②出穂後日数による判定方法（下表参照）

- ・穂が出た日からの日数で判断する方法です
- ・その年の気温により日数が違います
- ・気温が平年に比べて高い年は日数が短くなり、気温が低い年は長くなります

### ③出穂後の積算温度による判定方法（下表参照）

- ・出穂後の1日の平均気温を足した温度が、1,000～1,100度に達した時で判断する方法です
- ・気温の変化に余り影響を受けませんが、平均気温を計算する必要があります

\*参考：品種別・作期別収穫時期等平年値

品 種	作 期	出 穂 期	成 熟 期	登 熟 日 数	積 算 温 度
早生 (キヌヒカリ)	5月下旬植	8月 8日	9月17日	40日	1,000度
	6月上旬植	8月14日	9月25日	42日	1,100度
中生 (祭り晴)	5月下旬植	8月18日	9月30日	43日	1,100度
	6月上旬植	8月25日	10月 7日	44日	1,100度

(注) 平成7～15年までの県農業総合研究所調査から計算

## 玄米の発育と障害粒の増加経過（図参照）

- ・玄米の千粒重は、概ね出穂後30日で最高になります
- ・青米（青い籾）は、出穂後30日以降急激に減少しますが、50日頃まで残ります

\*青米（生き青）は、検査等級に影響しません  
（等級低下の要因にはなりません）

- ・障害粒は、出穂後約45日以降急激に増加します

